

留学先大学：Ca' Foscari University of Venice留学先での所属学部・研究科：Language留学先での在籍身分：Exchange Student留学期間：2014年09月～2015年02月神戸大学での所属学部・研究科：国際文化学部学年（出発時）：3年本報告書記入日：2015年04月08日**授業について**

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	History of International	Basosi Duccio	1.5	6	100	教授が提示するいくつかの本を読む必要がありますが、内容が難しいため早めに読み進めていった方がいいと思います。テストは記述式と口頭試験からなり、どちらも自分の意見をしっかり説明できるようにしておくことが重要です。
2	English Language	Cesiri Daniela	1.5~3	6	50	今回は"English for Tourism"というテーマで、自分が旅行会社のよ うな立場になり、旅行プランを作って発表する、という内容の授 業でした。2回のプレゼンテーションと授業中の発言、出席で評 価されます。
3	Summer School (Italian for Foreigners)	Michele Daloiso	6	6	20	各国からの留学生向けのイタリア語のクラスで、レベル別に分けられます。私はA2レ ベルのクラスだったのですが、スピードが早く、毎週6時間授業があるので、いつも課 題と予習に追われていました。その分、かなり力もつきます。オーラルの授業もある ので、喋る練習もかなりでき、日常生活にも生きる授業でした。
4	CLA(University Language Centre)	Elena Ballarin	5	6	20	ヴェネツィア大学付属の語学学校、というイメージで、1セメ スター100ユーロで受けられます。こちらもレベル別の授業で、担 当の先生にもよるとは思いますが、非常に教え方が上手かったよ うに思います。
5						
6						
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

講義は100人を超える大きいものもありますが、語学などはレベル別になっているため少人数で、質問などもしやすい環境でした。成績評価は、語学に関しては出席と最終テストで行われていました。その他の授業は上に書いた通りです。現地の学生は、やはり物怖じせず質問をしたり、発言したりする印象が強かったです。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：220,000（往復）・住居費：（月額）51,000 ×（留学月数）5ヶ月 = 255,000（インターネットキー含め）・食費：（月額）53,000 ×（留学月数）5.5ヶ月 = 291,500・保険料：100,950・その他：定期代（初期費用）7,000 +（月額）3,500 × 6 = 28,000合計：約100万円（旅行代、交際費など除く）（留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

半年の留学を終えて、帰国してたった2日で日本の生活に慣れました。今となっては、自分がヴェネツィアに留学していたことが夢だったようにさえ感じます。ですがヴェネツィアでの生活の1つ1つの出来事は鮮明に覚えており、この半年間は今までの人生で最も生き生きしていた半年間だったようにも感じています。

留学先での生活は初めての経験ばかりで、ややこしい手続きも多く、英語を話さない人もたくさんいて拙いイタリア語でのコミュニケーションに骨を折ったり、授業についていくのが大変だったり、旅行先でいろいろなトラブルに遭ったり、水上バスが徒歩しかないという不便さを痛感したり、と大変なことが次から次に降ってくるような毎日でした。でも、例えばややこしい手続きにもめげずに取り組めば、それは自分に出来るようになったことが1つ増えたということ。コミュニケーションをとるのが大変でも、その1回1回の会話の全てが自分の語学力の向上に直結している。慣れない生活習慣や日本とは違う文化もすごく新鮮で、いかに日本という便利なものがそこら中に転がっている世界に甘えていたかを気付かせてくれたり、もっと豊かな感性や、もっと広い視野を与えてくれたり。そんなふうに、ヴェネツィアで経験した全てが私を成長させてくれたと思っています。

もちろん楽しいこと、幸せなことも数えきれないほどありました。例えば、友達ができるのは本当に幸せなことでした。イタリア人の友達とお酒を飲んでいたら彼らの友達がやってきて友達になり、またその友達がやってきて友達になり、とイタリア人の壁を作らない人柄のおかげで友達の輪はどんどん広がっていききました。また、ヴェネツィア大学には日本語を勉強している学生がたくさんいることもあり、みんな日本が大好きだと言ってきて、よりいっそう自分の国のことが好きにもなりました。日本語の授業にTAとして参加して日本語を教えることで、いつも支えてもらっているだけではなく、自分でも皆の役に立てるんだ、ということを感じることも出来ました。その他、毎日美しい町並みや風景を楽しんだり、美味しい食べ物を楽しんだり、芸術や文化に触れたり、幸せな瞬間も大変なことに負けないくらいたくさんありました。

最後に、留學生活において、自分を成長させる大きな要素となった、私の「旅」についてお話したいと思います。私は、この留學の間、行きたい所には行ってみる、ということを決めていました。ヨーロッパという多くの国が密集した地域、EUという人の移動が盛んで自由な地域に行けるということを生かさない手はないと考えていたし、何より様々な国、様々な町の良さを自分の目で見て感じたいと思っていたからです。だから、3週間分の荷物を詰めた15キロのバックパックを背負って、オーロラやフィヨルドの雪景色を見に真冬の北欧に行きました。クリスマスにはドイツに行き、年越しにはロンドンにも行きました。そのようにして、ヨーロッパ10か国、イタリア14都市を巡りました。自分で考えて、自分の足で訪ねて、自分の目で見ると、新しい発見があって、そのような発見ができる私は幸せだなと感じました。1つ1つの町にたくさんの感動を見つけることができました。海外旅行にも慣れていなかった私が、自分ですべての計画を立て、予約をし、次から次に初めての国に飛び出していった経験は本当に自分を強くしたと思います。これほどまでに、計画力、行動力、問題に対処する力や精神的な強さを必要とする経験、いつも支えてくれる人がいることの心強さを実感できる経験はなかなかないと思います。

このようにして過ぎていった留學生活ですが、本当に充実した半年間で、やりたいことは全てやり切ったと思っています。心から楽しかったです。このような機会をいただけたこと、そして家族や友達、支えてくださった大学関係者など皆さんに本当に感謝しています。そして、これからも多くの人にこのようなチャンスを掴んでいてもらいたいと思いますし、チャンスが掴めた時には、しっかりと目的をもって、何より楽しむことを大事にして有意義な1日1日を送ってもらいたいと思います。